

## 同志社大学経済学部奥田ゼミ 和傘研究班の活動内容について

私たち同志社大学経済学部奥田ゼミ和傘研究班は和傘に魅力を感じ、老舗へのインタビューや文献調査を通して知識を深めています。現在は、暑さ対策としての和日傘利用の普及と卒業論文に向けた研究活動を行っています。

昨年度は、研究内容を活かして「一般社団法人京都知恵産業創造の森－令和 5 年度地域連携支援事業」に応募し、「京都から広める日傘レンタルサービス～京都に調和し、暑さに対応する日傘の普及提案～」という事業を採択して頂きました。この助成を受け、ご協力頂いたホテルで ryoten をレンタル利用して頂いています。

今回の同志社徽章入りデザインの ryoten の販売は、私たちのこのような活動のひとつとして、関係の皆さまのご協力のもとに実現に至りました。

暑さ対策としての和日傘の利用促進というアイデアは、私たちの先輩である奥田ゼミ 9 期生が原案（「第 18 回京都から発信する政策研究交流大会」優秀賞受賞）を考案されたものです。私たちはその原案を実行段階に移すべく活動しています。

このアイデアの目的は 3 つあります。

### ① 観光業や伝統産業の発展

職人が作った本物の商品に触れることにより、伝統産業全体への関心を高める機会に繋がると考えています。

### ② 「歩くまち・京都」のさらなる推進

日傘を持ち歩くことで夏を涼しく過ごして頂きたいと思っています。実は、環境省の実験によれば、「日除け」はミスト噴射などに比べて体感温度低下効果が非常に高いことが分かっています。つまり、日傘は暑さ対策として非常に効果的ということです。京都の夏は暑いことで有名ですが、ryoten を使って頂くことで、涼しく散歩や買い物、スポーツ観戦などをして頂きたいと考えました。また、それによって「歩くまち・京都」の推進も図れると考えています。

### ③ 環境への負荷低減

ryoten は和傘と同じく、骨部分は竹、そのつなぎ部分は木と半分は自然素材で出来ています。また、日傘を使うことは動力を必要としません。このような傘を用いることで、SDGsの推進にも貢献できると考えています。

このような考えのもとに、今後も日傘利用の普及促進に尽力するとともに成果を卒業研究にまとめたいと考えています。

そこで、研究としてまとめるに当たり、購入者の皆さまにもご意見を伺いたいと存じます。あくまでも任意ではありますが、同梱されているアンケート説明書をご覧の上、アンケートにご協力頂ければ幸いです。よろしくお願いいたします。